

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		みどりのこども館 通園部ウィズ		公表日		R8年 3月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		指定基準に準じた活動スペースを確保している。2クラス合同での活動や利用児の出欠状況に合わせてプログラムを変更するなど工夫している。	運動活動の際や活発に動きたいお子さんが多くいる場合はやや手狭に感じる場合がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		東京都の人員配置基準は満たしており、活動内容や利用児の出席状況に応じて柔軟な対応を行っている。	運動機能や精神発達面で様々な特性をもつお子さんを受け入れているため、個々への十分な支援実施の為に改善を重ねたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		一日の活動内容などは見て確認できるよう絵や写真、文字を使って提示している。また、提示する文字フォントをユニバーサルデザインに統一している。	お子さんの安全のためクラス間に市販のゲートを設置しているが、固定が十分できないことと段差ができることは課題である。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動によってクラス間で移動をしても同じような生活空間で心地よく過ごせるよう工夫している。	各クラスの入り口にドア未設置による音漏れ、和室を仕切る簡易間仕切りの固定の不安定さ、換気扇・カーテンの清掃等には課題がある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要時には、普段活動に使用していない相談室や音楽療法室を個別活動の部屋に使用している。	個別活動を必要とするお子さんが複数重なるなど部屋が不足する場合がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々の活動・行事のいずれも計画を立てて実施、振り返りを行っている。職員のミーティング時間を活動前後に確保し、意見交換を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表によるアンケートを年1回実施し、出された意向を職員間で共有し、それに基づいて業務改善を行っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の活動振り返りの場や管理者との面談機会を設けており、そこで出された意見をもとに業務改善を行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		指定管理事業のため、年1回武蔵野市の公の施設のモニタリング評価を受けている。評価結果を踏まえた業務改善を行っている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修、法人内・こども館内での研修への参加、OJTなどの機会を設けている。		
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		2024年9月に支援プログラムを作成し、保護者会での口頭説明および当法人ホームページ上に公開している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		1か月半ごとに利用児それぞれの状況を職員間でアセスメントしモニタリングを実施している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援計画を作成する際には利用児全員それぞれについて支援会議を実施し、職員間で計画の内容を検討している。		
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		保護者に確認をいただいた計画内容は職員間で共有し、活動内容に反映させている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたツールとしてKIDS乳幼児アセスメントツールと、職員による日々の行動観察とにより利用児のアセスメントを行っている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		発達支援計画は、本人への発達支援が中心となることが多いが、家族や地域の状況を踏まえて考慮し支援内容を検討している。今年度個別支援計画の書式を改訂し、家族支援・移行支援についても明記することを開始した。		

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		月1回のプログラム会議で大まかな活動内容を検討・決定し、当日の保育リーダー子どもの様子に合わせて詳細を決定し事前ミーティングで職員と共有をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		年間を通じて課題を少しずつステップアップするように進めている。また、子どもの様子に合わせて興味を持ちやすい歌や遊びを随時取り入れている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		基本的には集団活動であるが、活動内容によってはPT・OTの助言等を踏まえて、必要に応じて個別の課題設定や対応を実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前の打合せにて、その日の活動内容や目的だけではなく、活動全体を踏まえた情報共有を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		利用児の降園後に振り返りの時間を設け、情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		活動終了後の振り返りの際に、支援のポイントとなる事柄について記録している。また、ヒヤリハット等はその都度記録し、検証、再発防止につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		年間を6期に分けて、2か月ごとにモニタリングを実施し、その内容を個別支援計画に反映させている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		依頼があった担当者会議の全てに、活動でそのお子さんを担当した職員が出席した。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		指定管理事業であるため随時、市の関連部署との連携を行っている。また、保育園への職員派遣研修も実施している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行や併用にあたり独自書式の「大きな集団への参加を考えたときに、〇〇さんのウイズでの集団の様子、特記事項など」を活用し利用児の状況を保護者と確認している。また、担当者会議に出席し支援内容の共有を行った。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学相談員の個別行動観察や、就学先の教員の活動見学の受け入れの際の情報共有や就学支援シートへの記載などにより連携している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		市内児童発達支援事業所連絡会に参加し、情報共有や共通課題に関する検討を行っている。連絡会主催で市内子育て関連機関向けに児童発達支援事業所の紹介を目的とした交流会を実施した。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		外部研修への参加、ハビットPT・OTや外部スーパーバイザーからの助言を受ける機会を設けている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		市内児童発達支援事業所連絡会や子ども子育て支援ネットワーク会議等に参加している（一部の会議はハビットと役割分担し情報共有している）。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			児童発達支援センターのため回答なし	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		吉祥寺保育園との交流を年5回実施している。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		面談、連絡帳アプリ、電話等により随時子どもの状況を共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		1月に保護者向け講座「幼児期の癲癇行動について」を行った。		

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		入園前の説明会において説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画作成前に保護者の意向を伺い、計画に反映させている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者との面談の中で個別支援計画の説明を行い、計画書への署名をいただくことで同意の確認を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの相談は随時受け付けており、電話や送迎時の相談の他、必要に応じて面談を設定して助言や関係機関の案内を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		子ども館内ぐるりんの閉所日の空きスペースを活用して、ウィズ主催の保護者会の実施と保護者主体の親の会の会場提供を行っている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの相談申し入れに対しては、利用児の通園中や降園後の時間など、保護者の都合に応じて可能な限り迅速な日程や方法を提示し対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		年間予定と毎月の活動予定、行事ごとのお知らせを連絡帳アプリの配信機能を活用してお伝えしている。また、児童の写真を中心とした「ういずきっず」も発行している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		全職員を対象にした情報セキュリティ研修の実施と、定期的な情報管理状況のチェックを行っている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		お子さんの状態像に合わせて個別の対応と、イラストや写真を使ったわかりやすい説明をほぼ全ての活動や行事で行っている。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域開放事業のあてぼうデーを実施および、地域のボランティア受け入れを行っている。		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルに基づいた避難訓練を定期的に実施している。また、訓練実施後には振り返りを行いブラッシュアップを図っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年2回の全館での避難訓練に加えて、月1回通常活動の中に避難訓練の要素を取り入れている。また、12月にBCPの机上訓練を実施した。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		入園時の情報収集において、必要な事柄は確認している。医療的ケアなどが必要な場合は年1回以上、書面にて主治医の意見を確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書に基づいて除去食・代替食を提供している。また、特定の食品除去についてもメニュー表を保護者に確認いただき、希望を伺って実施している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		昨年度に作成した安全計画に戻った安全管理を進めている。	安全計画の定期的な見直しと改善を継続する。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画の内容を保護者会で説明、周知を行った。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		けが等があった場合は必ずヒヤリハット報告書に記載し、事業所内で共有し改善策を検討している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		人権擁護虐待防止の研修として、動画視聴とその内容に関するグループディスカッションを実施した。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		ベルトの使用は座位保持装置とチャイルドシート使用時のみのため、身体拘束に該当する行動制限は行っていない。	